



所在地/群馬県高崎市
 学生数/約750人
 学部/商(経営、会計)
 大学院/商学
 ▶THE世界大学ランキング2020 日本版/201+位

高崎商科大学

CASE STUDY

高校—大学—社会をつなぐ 教育改革ありきの入試



広報・入試室長 鈴木洋文

すずきひろふみ●民間企業を経て1999年高崎商科大学短期大学(現在の高崎商科大学短期大学部)入職。入試担当、教務担当を経て2017年より現職。入職以来、一貫して高大接続に携わり、「Haul-Aプロジェクト」[3.5本の矢プロジェクト](産学連携教育)などの教育プログラムを考案、実践している。高校生・大学関係者向けの講演多数。

入試だけの改革は「点」にしかない。まず入学後の教育を変え、そして高校にも働きかけ、人材育成の「線」をつくり上げようとする高崎商科大学の事例を紹介する。

高校との関係を変えた 簿記教育の高大連携

入職当初私は、高校との間に見えない壁を感じていました。「高校」お客様」という意識で、高校も「入学の押し売り」を警戒する。しかし、高校訪問を重ねてわかってきたのは、教育の話ならば高校は胸襟を開いてくれるということ。子どもたちが担う未来、そこで高校や大学が果たす役割を話題にすると、身を乗り出して聞いてくれるのです。この経験から私は、まず教育を変え、その特徴を伝える手段として入試と広報を考えることが大切だと気づきました。

教務に異動になり、最初に着手したのは会計学科の簿記教育です。当時本学は、商業高校から「高校の学びをリセットし、日商簿記2級以上伸びない大学」と見られ

高大連携から始める、これからの社会に向けた人材育成

高校のニーズ

社会のニーズ

連携の軸	高校	入試	大学
会計学科 高度会計人の育成	▶協定校に簿記・会計教育プログラムを無償で提供(オンライン講義、地域でのセミナー、大学での合宿等) ▶日商簿記1級合格をめざす	Haul-Aプロジェクト Haul-A特待生推薦(学校推薦型選抜) 書類審査(知識/主体性) 30% 個人面接(思考力/主体性) 50% 口頭試問(知識/思考力) 20% ▶4年間の授業料について ・日商簿記1級または全経簿記上級合格者は全額免除 ・日商簿記2級合格者は半額免除 *いずれも入学金は全額免除	▶会計学科に所属 ▶経理研究所「会計プロフェッショナルコース」を受講 ▶公認会計士、税理士をめざす ▶資格を取得した卒業生が講師として指導も
経営学科 探究・プレストスキルの育成	▶探究・プレストについてのワークショップ、講演会等を高校生、高校教員向けに開催	探究・ブレインストーミング型入試(総合型選抜) 調査書(知識/主体性) 5% 集団面接(思考力/主体性) 10% ペーパーテスト(知識/思考力) 20% ブレインストーミングプログラム(主体性) 65% ▶50分間のブレインストーミングプログラム(アイデアを出し合うグループワーク)により主体性を測る ▶プレストで社会課題を解決してきた企業と共同開発	▶経営学科に所属 ▶ゼミ、企業連携授業等で探究・プレストを積極的に実践(教員はプレストの研修を受講済み) ▶一定のプレスト技術を持つ学生に「プレストファシリテーター」の認定証授与

注目! ブレストの価値を広める 高校向けワークショップ開催

高崎商科大学では、教育改革を念頭に置き、プレストの教育価値を地元の高校に広める活動をしている。この7月には前橋市立前橋高校において、全教員対象のワークショップを開催。「理想の高校作り」について、班ごとにプレストを行った。同校で検討中の学校の将来構想に役立て、教員全員で取り組む態勢にすることが狙いだ。「未来の前橋を支える人材を育てるために、まず教員一人ひとりが考えを出し合い、変わりたい。プレストはテーマを自分事化しやすく、情熱が湧く。生徒の教育にも取り入れている」(同校田崎潤教諭)。講師として参加したカヤックの柴田士郎氏は「採用試験の参考になると考えて大学入試に興味を持った。高校や大学に関わり、長期的によい人材を育成していきたい。入試の企画参画もその一環で、評価をフィードバックするのもそれが成長につながるから」と語る。探究・ブレインストーミング型入試では、プレストの技術を身に付けた学生に、ファシリテーターとして参加してもらうことも検討中だ。



講師は大学職員とカヤックの社員が共同で務める

各自の教育や生徒への思いが次々とアイデアになって出てくる



「前橋市と連携した探究活動に取り組んでいる。進学実績だけが高校の価値ではない。地元で役立つ教育提供も重要な価値だ」(田崎潤教諭)

ていました。そこで、日商簿記1級取得者を多数輩出する岐阜商業高校に教えを請いに行きました。そこでわかったのは、高校教員が求める簿記教育とは、最難関の1級に挑むことによる人間的成長。本学でも人間力のある、地域で活躍する職業会計人の育成をめざしていたことから、早速2013年、「Haul-Aプロジェクト」を立ち上げました。これは連携する商業高校に簿記教育を提供し、高大7年間をかけて高度会計人を育てる取り組みです。翌年、受講生向けの入り口として「Haul-A特待生推薦入試」を開設。成績優秀で家庭の事情で就職する生徒が少なくないことを知り、授業料を免除しています。

協定校は全国40校。費用は全て大学負担ですが、結果的にマーケティング活動になっていっているほか、勉強熱心な特待生の存在は他学生の刺激にもなっています。

自己肯定感を育む 教育と育成型入試

続いて経営学科の改革に着手。企業連携授業を進める中、元気な企業人に話を聞くと、どの人も自分をアップデートしながら主体的に未来をつくり出しています。本

学でもそうした力を養えないか模索していたところ、出会ったのが、^{*2}ブレインストーミングを原動力に次々と革新的な事業や人事制度を打ち出すIT系企業、^{*3}面白法人カヤックです。カヤック流のプレストでは上手な聞き手になることを重視しており、安心してアイデアを出せる環境下で発言を繰り返すうちに自信が付き、自己肯定感が高まること。IRの分析で、主体的にキャリアを築く学生は自己肯定感が高いことがわかってきたため、「これだ!」と感じ、社員の方を招いて教職員向けの研修を開催。経営学科の教育にもこの手法を取り入れています。

この特色を高校に伝える最適な広報手段として、本年度、カヤックと共同で開発した「探究・ブレインストーミング型」入試を始めます。プレストを通じて「主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、その評価結果を受験生にフィードバックする育成型の入試です。高校入試「大学」社会を教育という「線」でつなげようと、プレストをテーマにした高校生・教員向けのワークショップも始めました。こうした積み重ねが、回り回って自学の教育に対する理解、高校からの信頼を育てるのだと思っています。

*1 Haul-A(High school and university link for Accounting)
 *2 brainstorming、略して、プレスト。集団でアイデアを出す会議
 *3 Webプロモーション等を手掛ける。社員アイデアを採用した「サイコロ絵」「スマイル絵」など斬新な人事制度でも有名